

事業番号

0156

平成24年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	大学・大学院における専門医療人材養成機能強化事業		担当部局庁	高等教育局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成19年度		担当課室	医学教育課		医学教育課長 村田 善則	
会計区分	一般会計		施策名	IV-1 大学などにおける教育研究の質の向上			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	がん対策基本法第14条		関係する計画、通知等	がん対策推進基本計画(平成19年6月閣議決定) 新成長戦略(平成22年6月18日閣議決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国民が安心・安全な医療を享受できる環境を確保し、医療の高度化等に対応していくため、我が国全体を通じた高度な医療人材の養成を目指す。 がんは、わが国の死因第1位の疾患であり、国民の生命及び健康にとって重要な課題となっていることを踏まえ、国民に対する最適で安心・安全ながん医療を提供するため、医療系大学院において教育環境の整備充実を行い、幅広い知識や高度な技術を有するがん専門医療人の養成を図ることを目的とする。 また、がん医療のみならず、医師不足や医療の高度化を背景に、医療全体の課題となっている医療の効果的、効率的な提供を目的とするチーム医療の推進に資する人材を養成する。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	①がんプロフェッショナル養成プラン がんの放射線療法や化学療法、緩和医療等に携わる専門の医師、看護師及び薬剤師等を養成する国公立医療系大学院の優れた取組に対して支援を行う。(補助率:定額補助) ②専門的看護師・薬剤師等医療人養成事業(平成23年度開始) チーム医療の推進に資する高度な看護師・薬剤師等の養成を行う大学の取り組みを支援する。(補助率:定額)						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託・請負 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ 交付 ☐ 貸付 ☐ その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
		当初予算	2,002	2,002	2,015	2,527	10,219※
		補正予算	0	0	0	0	
		繰越し等	0	0	0	0	
	計	2,002	2,002	2,015	2,527	10,219※	
	執行額	2,001	2,000	2,011			
執行率(%)	100.0%	99.9%	99.8%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (23年度)
	がん専門医療人の養成人数(コース受入数)	成果実績	人	683	607	625	613
		達成度	%	111%	99%	102%	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	がんプロフェッショナル養成プラン連携大学数	活動実績 (当初見込み)	件	94	94 (94)	95 (95)	(100)
		算出根拠	がんプロフェッショナル養成プラン 1大学当たりのコスト =平成23年度執行額(1,950百万円)÷連携大学数(95大学) (執行額=補助金額)				
単位当たりコスト	20.5(百万円/大学)						
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	大学改革推進等補助金	2,523百万円	10,209百万円※	※事業番号0157、0161及び事業番号新24-0010と事業の再構築を行うため、25年度要求額は事業番号0157及び0161と同額を記載。 ※日本再生戦略に関する「重点要求」4,500百万円			
	大学改革推進等補助金事務費	4百万円	10百万円※				
	計	2,527百万円	10,219百万円※				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	・がんは、わが国の死因第1位の疾患であり、国民の生命及び健康にとって重要な課題となっている現状から、広く国民のニーズがあり、優先度が高い。 ・「がん対策基本法」において、がん対策の策定・実施は国の責務と明記されている。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	・支出先は公募に基づき、第三者委員会で選定している。 ・がんプロフェッショナル養成プランの単位あたりのコストは、21年度21.3百万円/大学、23年度20.5百万円/大学と削減に努めている。 ・経費の執行に関しては、事業年度毎に各大学から提出される実績報告書等において、支出先・使途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っている。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	がんプロフェッショナル養成プランは、毎年度600人を超える学生を受け入れており、実効性が高く着実に成果が表れている。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	※類似事業名とその所管部局・府省名 —	
○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	・本事業により、がんプロフェッショナル養成プランでは毎年度600人を超える学生を受け入れ、がん専門医療人の養成が着実に図られており、将来、国民に対する最適で安心・安全ながん医療の提供が期待される。 ・経費の執行に関しては、事業年度毎に各大学から提出される実績報告書等において、支出先・使途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っている。 ・がんプロフェッショナル養成プランについては、中間評価・最終評価を実施し、効果的・効率的に事業が実施されるよう助言を行った。		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	1. 事業評価の観点：本事業は、がん医療に関する幅広い知識や高度な技術を有する、放射線療法や化学療法等のがん医療を専門的に担う医師等を養成することを目的とした国公立大学に対する補助事業であり、事業成果等の観点から検証を行う。 2. 所見：本事業については、「がんプロフェッショナル養成プラン」において毎年度一定の人数の学生の受け入れを行う等の成果を挙げているが、平成23年度からは「専門的看護師・薬剤師等医療人養成事業」、平成24年度からは「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」が追加され、事業が拡大している傾向にあることから、事業内容を精査し事業の再構築を行うべきである。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
執行等改善	予算監視・効率化チームの所見を踏まえ、大学病院人材養成機能強化事業、大学病院就業環境改善推進事業及び医学部・大学病院の教育研究活性化及び地域・へき地医療支援人材の確保事業と統合し、より社会のニーズに沿った支援が可能となるよう事業の再構築を行うこととする。		
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
◆がんプロフェッショナル養成プラン選定大学の取組状況 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/gan/1305652.htm			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0171	平成23年行政事業レビュー	0146

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単位:
百万円)

文部科学省
2,011百万円

諸謝金 1百万円
委員等旅費 0.3百万円
庁費 0.06百万円 } を含む

対象大学から申請のあった事業内容を審査の上、支援対象とする取組を選定し、補助金を交付する。

※国費投入額と総事業費の差額は自己収入である。

【公募・補助】

がんプロフェッショナル養成プラン
A.大学(全18大学)
2,128百万円

拠点となり、連携する大学・大学病院等との緊密なネットワーク体制を構築することにより、放射線療法、化学療法等を専門的に行う多くの優れた専門家を養成する。

【公募・補助】

専門的看護師・薬剤師等医療人養成事業
C.大学(全10大学)
59百万円

看護師・薬剤師等の役割拡大を担い、チーム医療の推進に資する人材を養成する。

【分担金】

B.連携大学(全77大学)
956百万円

申請担当大学と連携して放射線療法、化学療法等を専門的に行う多くの優れた専門家を養成する。

※ 平成24年度からは、「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」事業を新たに追加して実施予定。

(千葉大学のケース)

A. 千葉大学
164百万円

千葉大学では3大学と連携し、「関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点」を実施

【分担金】

B. 筑波大学 82百万円	埼玉医科大学 31百万円	茨城県立医療大学 3百万円
------------------	-----------------	------------------

千葉大学と連携して放射線療法、化学療法等を専門的に行う多くの優れた専門家を養成する。

費目・使途 (「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の 金額が支出されている者につい て記載する。費 目と使途の双方 で実情が分かる ように記載)	A.千葉大学			E.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	分担金	連携3大学への分担金	116			
	人件費	講師謝金、教員、事務補佐員雇用経費等	36			
	事業推進費	消耗品費、印刷製本費、雑役務費、旅費等	10			
	設備備品費	バイオ用クリーンベンチ、卓上遠心分離器	2			
	計		164	計		0
	B.筑波大学			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	人件費	講師謝金、教員、事務補佐員雇用経費等	41			
	事業推進費	雑役務費、消耗品費等	28			
	設備備品費	E-ラーニングクラウド化事業ハード機器	12			
	旅費	会議旅費、学会参加旅費等	2			
	計		82	計		0
	C.群馬大学			G.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	旅費	関係施設への情報収集のための旅費、教員・指導者のスキルアップのための研修参加 等	2			
	消耗品費	トナーカートリッジ 等	2			
	設備備品費	排尿管理システム、動脈穿刺トレーニング用腕モデル一式 等	1			
	雑役務費	人材派遣料 等	1			
	計		6	計		0
	D.			H.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0

※ 表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計が一致しない。

支出先上位10者リスト

A.がんプロフェッショナル養成プラン

※補助事業

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	千葉大学	関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点	164	—	—
2	大阪大学	チーム医療を推進するがん専門医療者の育成	163	—	—
3	北里大学	南関東圏における先端のがん専門家の育成	150	—	—
4	岡山大学	中国・四国広域がんプロ養成プログラム	121	—	—
5	名古屋大学	臓器横断的がん診療を担う人材養成プラン	117	—	—
6	群馬大学	北関東域連携がん先進医療人材育成プラン	111	—	—
7	近畿大学	6大学連携オンコロジーチーム養成プラン	109	—	—
8	札幌医科大学	北海道の総合力を生かすプロ養成プログラム	100	—	—
9	九州大学	九州がんプロフェッショナル養成プラン	100	—	—
10	東北大学	東北がんプロフェッショナル養成プラン	100	—	—

B.連携大学

※補助事業

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	筑波大学	がん専門医師養成、がん専門コメディカル養成等	82	—	—
2	埼玉医科大学	がん専門医師養成、がん専門コメディカル養成等	31	—	—
3	茨城県立医療大学	がん専門コメディカル養成等	3	—	—

C.専門的看護師・薬剤師等医療人養成プラン

※補助事業

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	群馬大学	地域社会の要請に応えた高度専門看護師養成	6	—	—
1	兵庫県立大学	チーム医療を担う高度実践看護師の育成	6	—	—
1	高知県立大学	チームでLifeを紡ぐ高度実践看護師教育	6	—	—
1	沖縄県立看護大学	島しょにおける「包括的専門看護師」の養成	6	—	—
1	日本赤十字看護大学	各災害サイクルの高度実践看護職の育成	6	—	—
1	広島大学	高度医療専門職チーム力・臨床指導力の育成	6	—	—
1	名古屋市立大学	チーム医療に貢献する薬局薬剤師の養成	6	—	—
1	慶應義塾大学	地域で活躍する高齢者支援指導薬剤師の養成	6	—	—
1	名城大学	臨床判断能力向上のための共育プログラム	6	—	—
10	聖路加看護大学	チームビルディング力育成プログラム	5	—	—